

知財AIプラットフォーム 比較調査レポート

Patsnap Eurekaと日本の特許AI 5サービスの
機能・技術・戦略的ポジショニング

調査対象：Patsnap Eureka / サマリア (Summaria) / Tokkyo.Ai / Patentfield AIR / Genzo AI / AI Samurai

調査日：2026年8月9日（第2版）

エグゼクティブサマリー



「AIエージェント」時代への突入

調査対象6社中4社が単なる「検索・要約」ではなく、自律実行型「AIエージェント」を標榜。市場の要求水準が一段階引き上がった。



独自モデル vs 汎用LLM

独自の特許特化モデルを持つのはPatsnapとPatentfieldのみ。他4社は汎用API（OpenAI/Claude）に依存したプロンプト・ワークフロー設計で勝負する。



圧倒的スケールと「非公表」の壁

Patsnapが突出（特許2.1億件/NPL2.16億件）。日本勢で具体的な収録件数・遡及範囲を開示しているのはPatentfield（約8,000万件）のみ。残る4社は情報非公開。

AIエージェント成熟度モデル

L1: 単機能生成・一括処理

最大1万件の母集団への生成AIプロンプト一括適用など、並列処理に特化。
(Patentfield AIR, Genzo AI)

L0: 検索支援

検索式生成・ランキングまで。以降は人が実施。
(Tokkyo.Ai 従来機能)

L3: 業務単位の自律エージェント群

業務ごとに独立したエージェントが反復検索・自己評価・出典付きレポート生成まで自律完結。
(Patsnap Eureka, AI Samurai MCP)

L2: 多段ワークフロー

特徴抽出→検索→評価→レポートの複数ステップを連続実行。人間が承認。
(サマリア, Tokkyo.Ai MyTokkyo.Ai)

導入の注意点：L3が常に最適とは限らない。弁理士の判断責任が重い出願実務では、L1～L2の設計が合理的な場合がある。

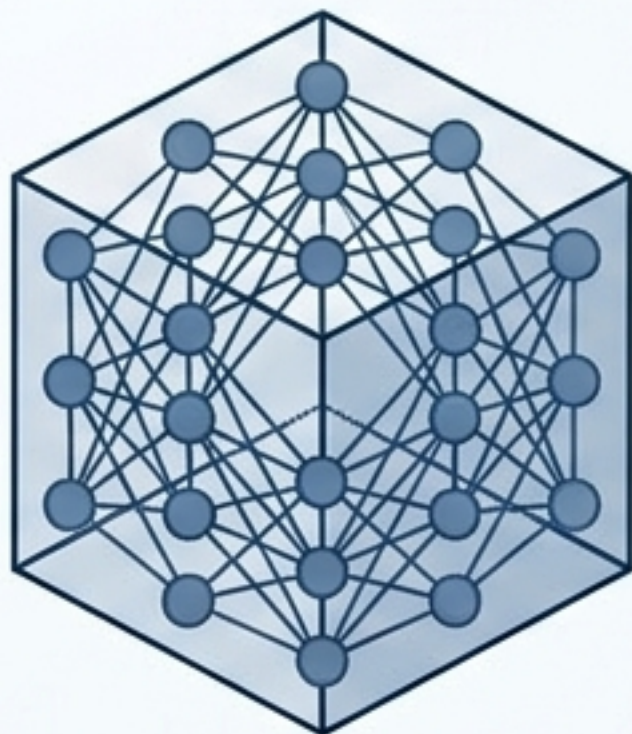
データ基盤と透明性の比較

	Patsnap Eureka	Patentfield AIR	サマリア	Tokkyo.Ai	Genzo AI	AI Samurai
特許収録件数	2億1,000万件	約8,000万件	非公表	非公表	非公表	非公表
非特許文献 (NPL)	2億1,630万件	確認できず	非公表	非公表	非公表	非公表
対応法域	174法域	JP, US, EP, CN, KR, TW, WO + DOCDB	非公表	非公表	非公表	JP/US/CN
更新頻度	日次	確認できず	非公表	非公表	非公表	非公表

インサイト：データ規模の勝者はPatsnap。日本勢ではPatentfieldのみが収録範囲を明示しており、実務上の網羅性判断が可能。

AIアーキテクチャの分断

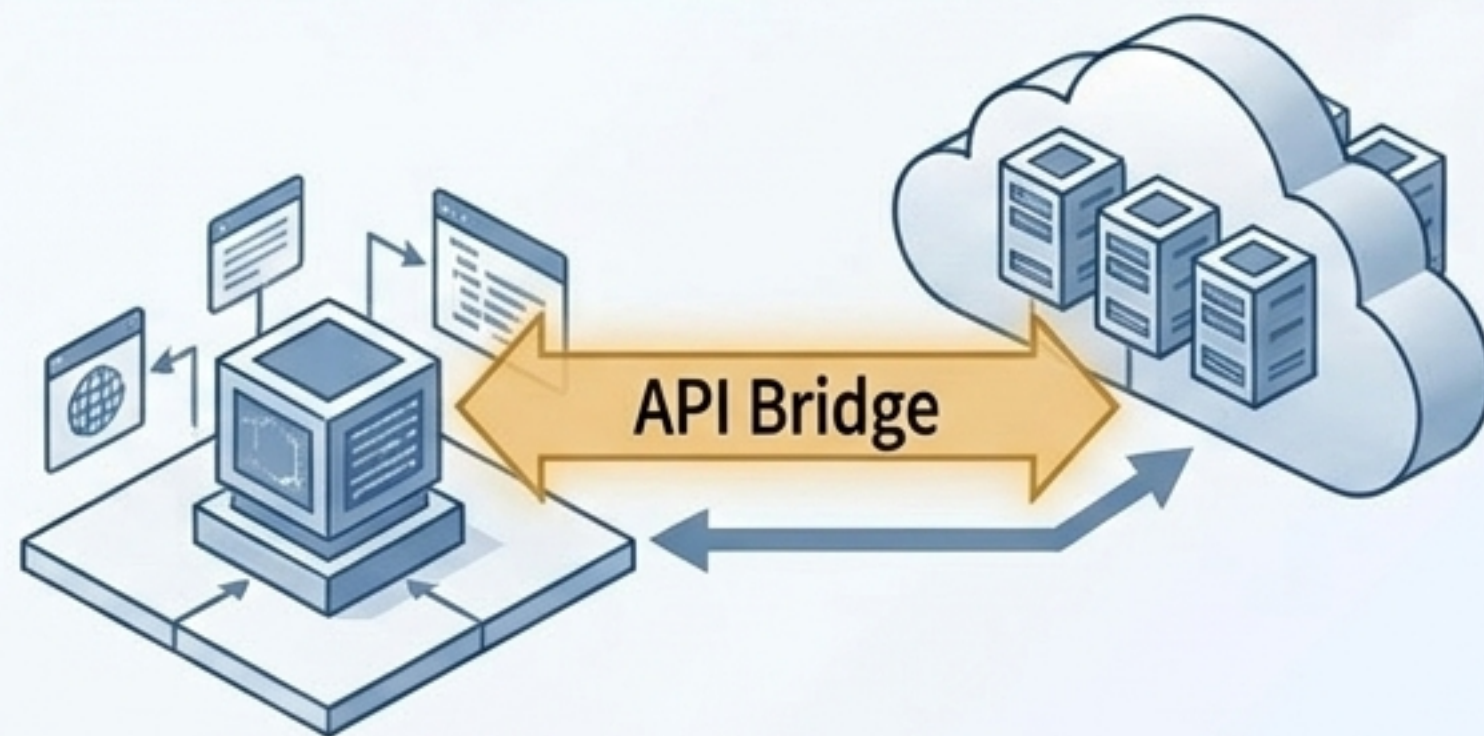
独自ドメイン特化型



該当：Patsnap, Patentfield (GENIAC)

- 35億件超のデータで独自学習
- 特許固有の言語やクレーム構文に根底から適応
- 外部APIの仕様変更や価格変動に依存しない

汎用LLM + ワークフロー特化



該当：サマリア, Tokkyo.Ai, Genzo AI, AI Samurai

- GPT-4o, Claude 3等の汎用APIを利用
- 基盤モデルの進化を即座に自社UIへ取り込む
- 日本の特許実務に合わせたプロンプトとフロー設計に特化

留意点：汎用LLMの弱点は「モデル名の非公開」。使用モデルを世代（GPT-4o等）まで明示しているのは6社中Patentfieldのみ。

機能力バレッジ・マトリクス

グローバル対応の全方位カバー。
ただしJPO形式の明細書作成は未確認。

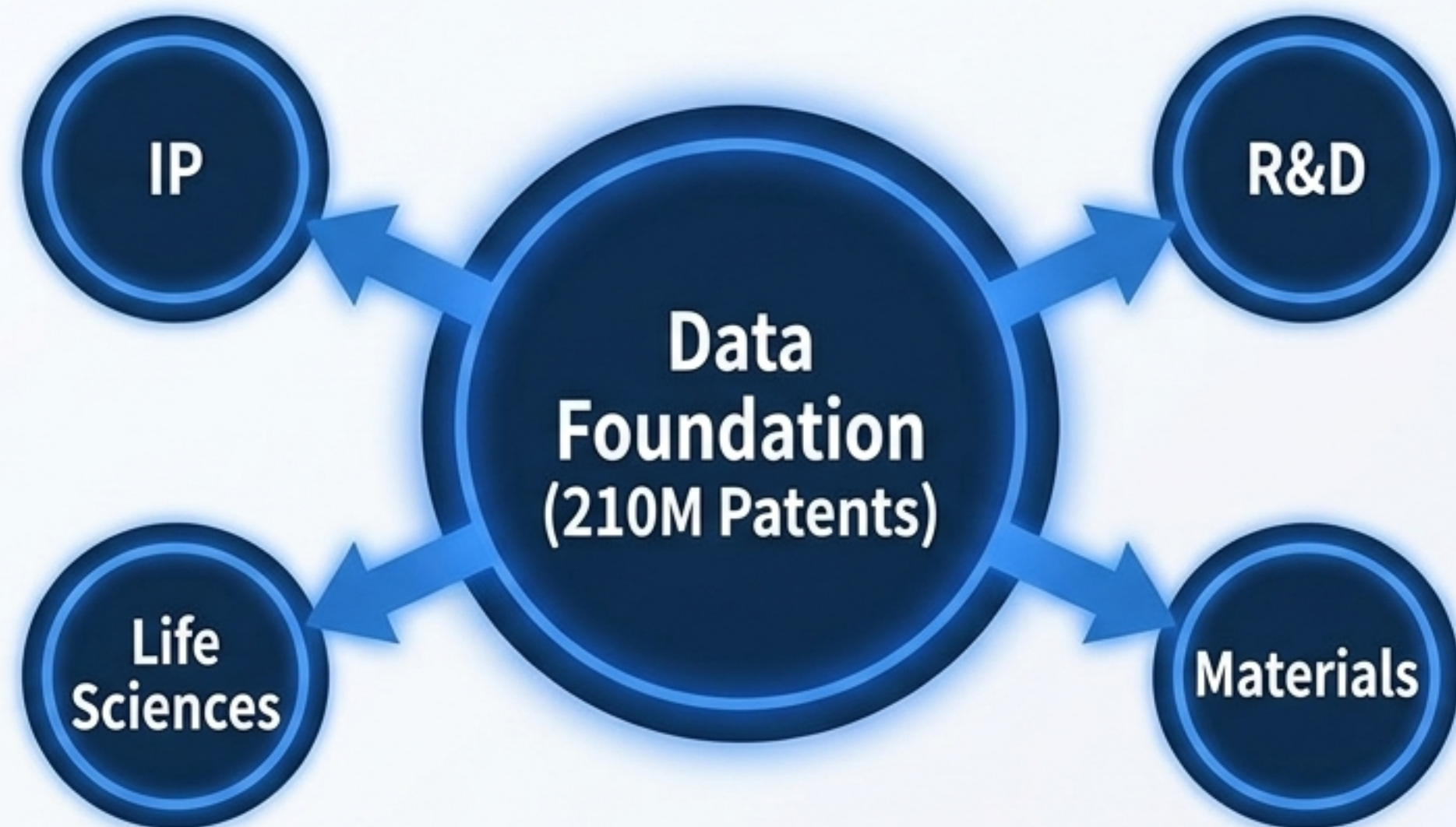
	Patsnap Eureka	サマリア	Tokkyo.Ai	Patentfield	Genzo AI	AI Samurai
先行技術調査	●	●	○	●	○	●
FTO/クリアランス	●	○	△	△	○	○
大量文献の一括査読	○	○	△	●	○	△
明細書ドラフト作成	○	●	○	△	△	●
中間処理/OA対応	○	●	△	△	●	○
パテントマップ/分析	●	○	●	●	△	△

日本の出願・中間処理実務に極めて深い作り込み（50項目のルールベースチェック）。

大量バッチ査読（最大1万件）に特化。

Patsnap Eureka

The Global Goliath / 垂直統合



✓ 選定の理由 (Strengths)

- 圧倒的なデータ基盤 (特許+非特許文献)
- R&D, 創薬, 材料に特化した業務別L3エージェント群
- ISO27001 / SOC2準拠の高度なセキュリティ

⚠ 留意点 (The Caveat)

- JPO形式の日本語明細書作成への完全対応は公式に明記されていない。
- 国内出願メインの用途には導入前の個別確認が必須。

サマリア (Summaria)

The Japanese Prosecution Master



Human-in-the-Loop

先行技術調査

ドラフト生成

50項目ルール
検証

OA対応

✓ 選定の理由 (Strengths)

- ・弁理士が開発した、日本の出願・中間処理における圧倒的な解像度
- ・「Ask」と「Agent」の2モードによる堅牢なL2ワークフロー (ユーザー承認・履歴保持)
- ・料金体系、導入社数(196社)、ISO27001取得など日本勢で最高レベルの透明性

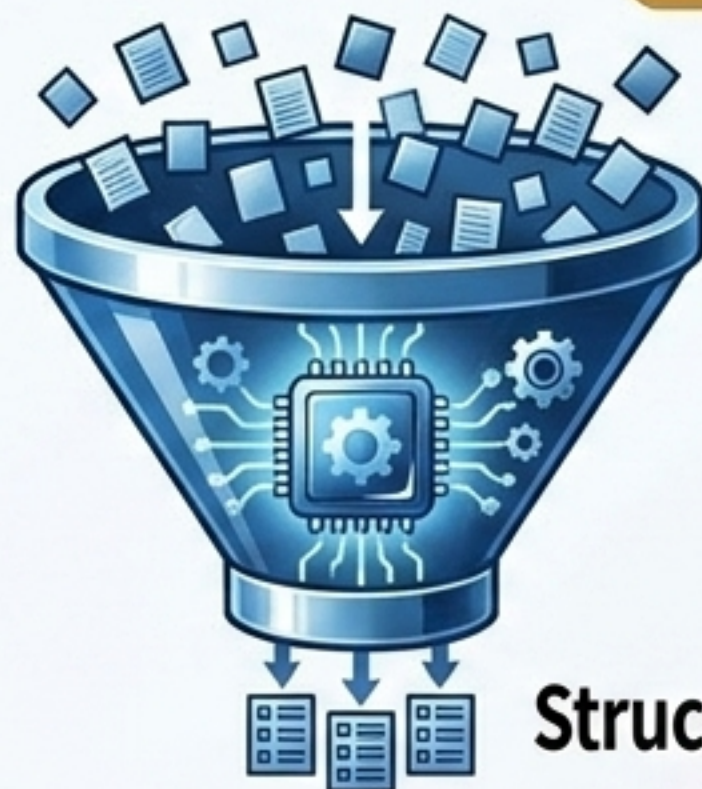
⚠ 留意点 (The Caveat)

- ・自社独自の検索DBを保有していない。
- ・完全な多法域グローバル調査よりも、日本の実務アシストに最適化されたツール。

Patentfield AIR

The Brute-Force Batch Processor

10,000
Raw Patents



Structured Data Arrays

✓ 選定の理由 (Strengths)

- ・「最大1万件へのプロンプト一括適用」に絞り込んだ強力な割り切り
- ・再現率 (Recall@100) 42%→70%改善という筋の良い精度指標を公表
- ・使用LLMモデルの完全開示とBYOK (APIキー持ち込み) に対応

⚠ 留意点 (The Caveat)

- ・対話型の出願書類作成やOA対応エージェントを求める層には不向き。
- ・あくまで「調査・査読の自動化」に特化した兵器。

Tokkyo.Ai & AI Samurai: アーキテクチャの対比

Tokkyo.Ai

The Private Vault



- ✓ 企業内プライベート検索環境（専用URL）
- ✓ 検索クエリが社外に出ない強固なセキュリティ
- ✓ 特許・意匠・商標・審決の4法横断検索
- ✓ 特許価値評価AIによるスコアリング

AI Samurai

The Ecosystem Player



- ⚠ MCPサーバー提供によるエコシステム戦略
- ⚠ ユーザー環境のClaude等から特許DBを直接呼び出し
- ⚠ 既存の社内生成AIインフラとのシームレスな統合
- ⚠ 審査シミュレーションによるA~Dの4段階評価

Genzo AI

The In-House Brain



事業会社の暗黙知



AIプロンプト化



SaaS展開

✓ 選定の理由 (Strengths)

- ・島津製作所知財部のベテランの「思考プロセス」をAIに変換して外販する異色の出自
- ・「契約書レビュー」モジュールを含む、事業会社の知財・法務実務に即した網羅性
- ・ゼロアクセス設計と国内AWSリージョン保管による強固なデータガバナンス

⚠ 留意点 (The Caveat)

- ・2026年4月設立の新会社。
- ・ISO等第三者認証の取得や、外部企業への大規模な導入実績はこれから形成される段階。

業界固有のリスク：生成AI知財ツールをめぐる係争



**生成AI知財プラットフォーム自体が、
特許権侵害訴訟の対象となっている。**

事例：サマリア vs Patentfield

- ・経緯：2024年10月～12月に計6事件を東京地裁に提訴。
- ・結末：2026年4月に「調停に代わる決定」で終了。勝敗や和解条件は完全非公表。

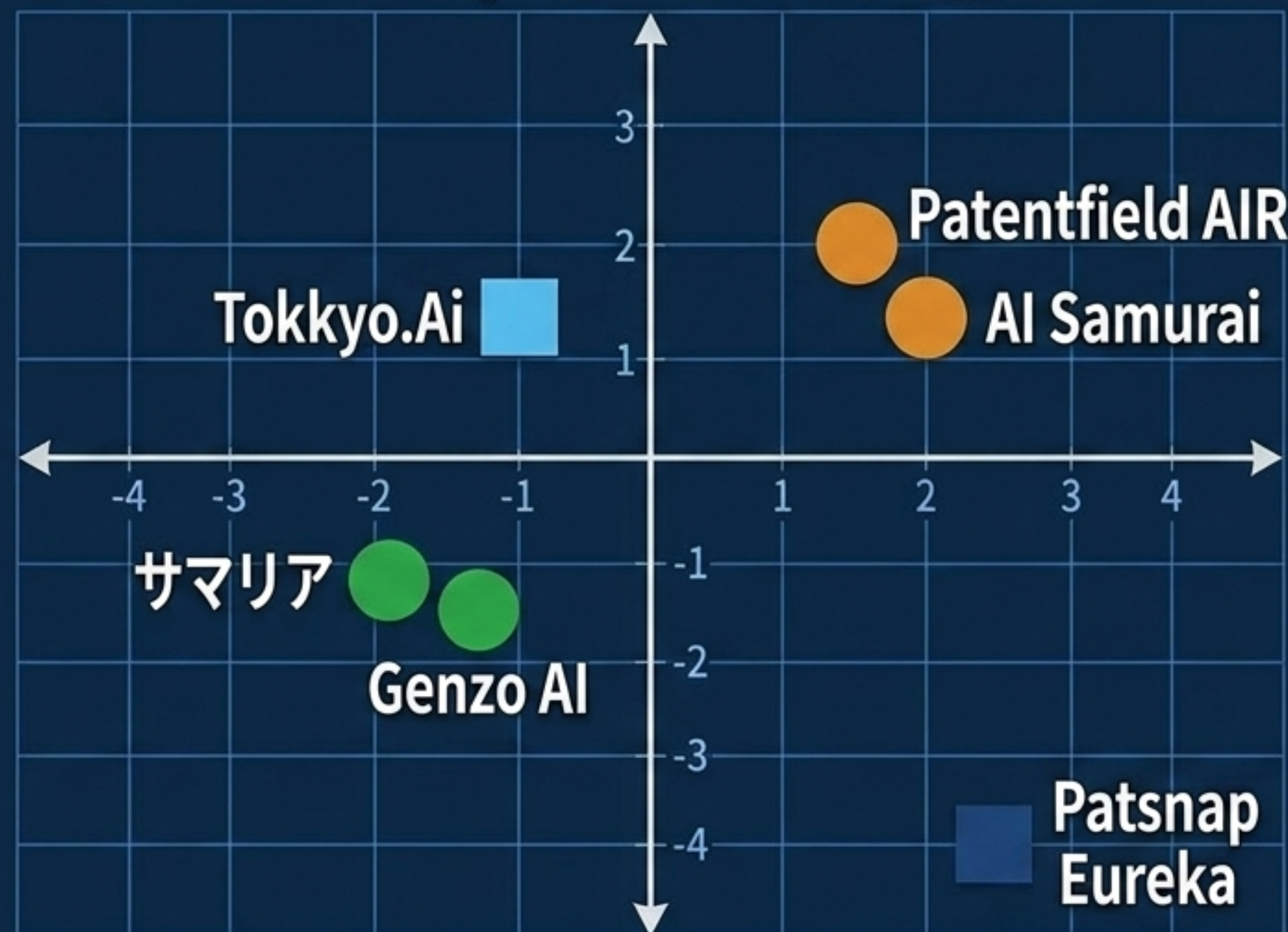
調達部門への含意：原告は「同等機能を提供する他社への特許権行使も免れない」と警告している。プラットフォーム選定時、機能や価格だけでなく、ベンダー自体のIPリスク（自社特許網の有無や係争耐性）も極めて重要な評価基準となる。

戦略的ポジショニング・マップ

オープン / API・エコシステム連携

国内出願・中間処理重視

グローバル調査・R&D重視



クローズド / 垂直統合プラットフォーム

知財AIエージェント 調達チェックリスト



1. 言語と法域の適合性 (Language & Jurisdiction)

JPO形式の日本語明細書作成が必須か？それともグローバル多言語調査が主眼か？



2. LLMの透明性と世代 (LLM Transparency)

裏側で動いているモデル名 (GPT-4o, Claude 3.5等) は開示されているか？
自社AIへのAPI持ち込み (BYOK) は可能か？



3. データガバナンスと学習利用 (Data Governance)

入力データがモデル学習に利用されない旨が契約上明記されているか？
ISO27001 / SOC2認証を保持しているか？



4. エコシステム統合 (Ecosystem Integration)

独立したSaaS UIを使いたいのか？それともMCP経由で自社の既存生成AI (Claude等) に特許DBを組み込みたいのか？

**「特許検索」の時代は終わった。
自律型『知財AIエージェント』の時代においては、
自社の業務フローに適合する戦略的な調達が競争力を決する。**

知財AIプラットフォーム 比較調査レポート

Patsnap | サマリア | Tokkyo.Ai | Patentfield | Genzo AI | AI Samurai